

平成 26 年度

年 報

ANNUAL REPORT

VOL.19



島根大学産学連携センター

— 松江地区 —

Collaboration Center, Shimane University

本年報について

本年報は、主に、平成 26 年度における島根大学産学連携センター松江地区に関する活動についてまとめたものです。

**島根大学産学連携センター（松江地区）
平成26年度年報目次**

1	産学連携センターの紹介 ……………	1
1-1	構成……………	2
1-2	スタッフ一覧……………	3
2	産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 ……………	5
2-1	主催事業……………	6
2-1-1	山陰（鳥取・島根）発 新技術説明会……………	6
2-1-2	MOT セミナー初級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法(1)」…	9
2-1-3	MOT セミナー中級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法(2)」…	10
2-1-4	島根大学知的財産セミナー「知的財産の基礎と研究ノートの活用法」……………	11
2-2	後援事業……………	12
2-2-1	産学連携学会 関西・中四国支部 第6回研究・事例発表会……………	12
2-3	協賛事業……………	13
2-3-1	多機能ナノ/メソ空間材料創出プロジェクト キックオフ講演会……………	13
2-4	イベント等での研究シーズ発信……………	14
2-4-1	地域イノベーション創出2014inとっとり……………	14
2-4-2	イノベーション・ジャパン2014—大学見本市&ビジネスマッチング……………	14
2-4-3	山陰発技術シーズ発表会 in とっとり2014……………	15
2-4-4	第4回おおた研究・開発フェア……………	16
2-4-5	アグリビジネス創出フェア2014……………	16
2-5	他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動……………	17
2-5-1	平成26年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議……………	17
2-5-2	一般財団法人コラボ産学官 第6回本部通常総会および記念講演会……………	18
2-5-3	まつえ産業支援センター開所1周年記念講演会……………	18
2-5-4	産学連携学会第12回大会……………	18
2-5-5	教育学部自然環境教育講座研究懇話会 講演……………	19
2-5-6	中国地域産学官コラボレーション会議 第13回全体会議……………	19
2-5-7	大阪冶金会講演会……………	20
2-5-8	平成26年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議	20
2-5-9	航空機産業ビジネスセミナー……………	21
2-5-10	第26回国立大学法人共同研究センター長等会議……………	21
2-5-11	大企業ニーズ提示型ビジネスマッチング ニーズ説明会……………	22
2-5-12	島根大学法人10周年記念事業……………	22

2-5-13	InterOpto 2014	22
2-5-14	しまね企業交流会	23
2-5-15	コラボ産学官設立 10 周年記念フォーラム	24
2-5-16	特許・情報フェア&コンファレンス 2014	24
2-5-17	産学連携学会平成 26 年度秋季シンポジウム	24
2-5-18	グローバル知的財産戦略フォーラム 2015	25
2-5-19	中国地域産総研技術セミナー in 島根	25
2-5-20	平成 26 年度大学-JST 意見交換会	26
2-5-21	シンポジウム「地域企業による「大学活用の成功事例」と「大学の使い方」	26
2-5-22	国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議	26
2-5-23	国立大学法人共同研究センター等教員会議	27
2-5-24	第 17 回島根県学生児童発明くふう展	28
2-5-25	産学官連携に関する情報・意見交換	28
2-5-26	島根大学・ごうぎん情報交換会	29
2-5-27	その他の打合せ	29
<hr/>		
2-6	各種外部委員活動等	30
<hr/>		
2-7	産学連携による受賞	31
2-7-1	産学連携学会功労賞を受賞	31
<hr/>		
2-8	産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択	32
2-8-1	平成 26 年度 JST「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)」	32
2-8-2	公益財団法人しまね産業振興財団「技術革新支援総合支援事業」	32
<hr/>		
2-9	広報活動	33
2-9-1	島根大学研究シーズ集 追加作成	33
2-9-2	メール配信	33
<hr/>		
3	平成 26 年度科学技術相談(松江地区の担当分)	35
<hr/>		
4	平成 26 年度共同研究一覧	37
<hr/>		
5	知的財産(特許)	41
	[特許出願件数・特許登録件数]	42
	[公開特許一覧]	42
	[J-STORE, 開放特許情報データベース登録件数]	46
<hr/>		
6	平成 26 年度産学連携センターの活動に関する報道・主な記事	47
<hr/>		
7	産学連携センター地域産業共同研究部門 研究設備の紹介	49

1-1 構成

「産学連携センター」は、島根大学における産学連携活動の中核を担っており、企業からの科学技術相談や共同研究などの企画・推進に加え、プロジェクト研究の企画・推進の強化や特許などの知的財産の創出・活用の推進を主な業務としています。

これらの活動を円滑に行うために、①「地域産業共同研究部門」、②「地域医学共同研究部門」、③「連携企画推進部門」、④「知的財産創活部門」の4部門があります。

各部門に部門長と専任教員を配置するとともに、産学官連携コーディネーターや客員教授など外部の専門家の協力を得て、産学連携活動を展開しています。特に、全国でも数少ない医学系に産学連携の専任教員を配置していること、そして、産学連携のリエゾン活動から知的財産の活用までの活動を一つの組織で推進していることが、大きな特色です。

【地域産業共同研究部門（松江地区）】

【地域医学共同研究部門（出雲地区）】

科学技術相談への対応や企業等との共同研究等の企画や推進を行っています。

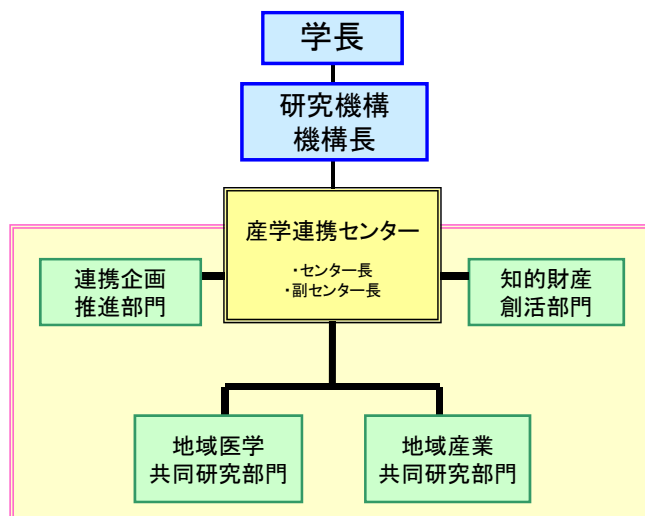
地域産業共同研究部門では、特に地域の産業界との共同研究を主眼において、また、地域医学共同研究部門では、特に地域の医学、医療、福祉に関する共同研究を主眼において活動しています。

【連携企画推進部門】

産学連携センターの各部門及び各学部との強固な連携の元に、大学の研究戦略や地域の産業振興戦略と歩調を合わせた、研究プロジェクトの企画・推進及び大型の外部研究資金の獲得に向けたリエゾン活動を展開しています。

【知的財産創活部門】

大学で創出される研究成果などの知的創造資産を、特許などの知的財産に結びつけ、社会での活用を促進しています。



島根大学における産学連携推進体制

1 産学連携センターの紹介 / スタッフ一覧

1-2 スタッフ一覧

職種	氏名 (所属)
センター長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
副センター長	並河 徹 (医学部 教授)
産学官連携コーディネーター	久保 衆伍 (特任教授)
	北浦 克成 (島根県商工労働部産業振興課)
支援スタッフ	松江地区：林 由佳, 上田 由美子
	出雲地区：山崎 享子, 仲川 舞

【地域産業共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	佐藤 利夫 (生物資源科学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	北村 寿宏 (教授, 専任教員)

【地域医学共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	並河 徹 (医学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	中村 守彦 (教授, 専任教員)

【連携企画推進部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (連携企画担当)	丹生 晃隆 (准教授, 専任教員)

【知的財産創活部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	山田 容士 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (知的財産担当)	阿久戸 敬治 (教授, 専任教員)

【客員教授】

担当分野	氏名（現職等）
コーディネート活動 共同研究企画	吉野 勝美（島根県産業技術センター 所長）
コーディネート活動	金山 信幸（有限責任事業組合プラズマ技術研究開発センター 代表）
コーディネート活動	山崎 幸一（前：島根県産業技術センター 研究企画監）
コーディネート活動	伊藤 正和（和鋼博物館 館長）
コーディネート活動	大森 健一（東京工業大学 特別顧問）
広域コーディネート活動	小金 民造（K - a r i n 2 1 代表）
MOT 教育 起業支援	出川 通（株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役）
知的財産権関連	田辺 義博（田辺特許商標事務所 所長 弁理士）
知的財産権関連	中野 睦子（三枝国際特許事務所 弁理士）

2-1 主催事業

産学連携の第一歩として、研究成果を産業界の方々に知っていただくことが必要です。

当センターでは、このような目的から、産業界の方々向けに各教員の研究成果を紹介する場を企画し実施しています。

平成 26 年度に当センターが主催として、企画実施した事業を以下に紹介します。

2-1-1 山陰(鳥取・島根)発 新技術説明会

日時：平成 26 年 7 月 4 日(金)10:00～17:00

会場：大阪商工会議所 4 階 401 号会議室

主催：国立大学法人鳥取大学，国立大学法人島根大学，
地方独立行政法人鳥取県産業技術センター，島根県産業技術センター，
鳥取県衛生環境研究所，独立行政法人科学技術振興機構

共催：大阪商工会議所，中国地域産学官連携コンソーシアム

後援：鳥取県，島根県，公益財団法人鳥取県産業振興機構，
公益財団法人しまね産業振興財団，独立行政法人中小企業基盤整備機構，
全国イノベーション推進機関ネットワーク

【概要】

7 月 4 日(金)に、大阪商工会議所において、「山陰(鳥取・島根)発 新技術説明会」を開催しました。新技術説明会は、大学や公設試験研究機関等から生まれた研究成果の実用化を促進するために開催される JST の事業であり、山陰地域の大学、公設試験研究機関が連携して開催するのは、今年度で 8 回目となります。



昨年に続いて今回も大阪で開催し、ライフサイエンス・材料をテーマに、島根大学、鳥取大学、島根県産業技術センター、鳥取県産業技術センター、鳥取県衛生環境研究所から生まれた 11 件の新技術の発表が行われ、本学からは 4 件発表しました。

当日は、118 名の参加者が集まり、山陰発の新技術に熱心に耳を傾けられていました。また、各発表の終了後には、名刺交換が行われ、民間企業等からの具体的な相談について、担当コーディネータも交えた協議が行われました。



島根大学から発表した新技術の概要

材 料 「銅酸化物系高温超伝導膜の低温かつ簡易的な作製方法」

総合理工学研究科 物理・材料科学領域 船木修平 助教

熔融させた水酸化に RE と Ba と Cu から成る原料を溶解させることで、1 気圧の還元雰囲気中において 500~700℃の低温下で、基板上に銅酸化物高温超伝導膜を成長させることを特徴とする結晶膜作製方法。



【従来技術・競合技術との比較】

従来の作製方法では、900℃程度の高真空環境が必要であったが、本方法では特殊な装置を用いることなく、従来に比して 350℃以上低い温度で“高品質”な膜を“高速”で成膜可能となる。

【新技術の特徴】

- ・ 熔融水酸化物を用いることで低温で物質を反応させ、目的の結晶を得ることが可能
- ・ 結晶を成長させる基材の表面を修飾することで、目的の物質をエピタキシャル成長させることが可能
- ・ 溶液からの液相成長による、結晶の高速成長が可能

【想定される用途】

- ・ 超伝導ケーブルなど、高性能な配向膜の性質を利用した線材作製、及びその接合
- ・ 周波数選択性を高め損失を極めて低減化可能な超伝導フィルタ
- ・ 電気抵抗ゼロ、ジョセフソン効果などを利用した物性評価装置

アグリ・環境 「光照射による植物病害の防除法の開発」

生物資源科学部 農林生産学科 上野 誠 准教授

キュウリやメロンなどの植物に LED や HEFL を光源とした赤外光を照射することにより、うどんこ病を防除できることを明らかにした。光を照射することによる植物病害の防除は、農薬の使用や農薬耐性菌の出現を減らすことに繋がる。



【従来技術・競合技術との比較】

緑色光や紫外光を植物に照射することにより、植物の病害が防除されることは従来から報告されていた。本技術は、これらの波長とは異なる赤外光を照射することによる植物の病害の防除法であり、新たな病害防除技術として利用できる可能性を持っている。

【新技術の特徴】

- ・ 農薬の使用を減らした病害防除が可能
- ・ 農薬耐性菌の出現を減らすことに繋がる

- ・農作業時間を軽減できる
- 【想定される用途】
- ・ハウス栽培・苗生産における病害防除
 - ・病害防除用の光源（LED, HEFL 等）
 - ・光照射用の装置, 機器

アグリ・バイオ 「共生微生物を利用した高い生産能力を持つサツマイモ種苗生産方法」 生物資源科学部 農林生産学科 足立文彦 助教

サツマイモ育苗時に特殊な栄養繁殖技術を用いることで、有用な共生微生物を効率的にサツマイモ苗に取り込ませる方法を開発した。微生物の生物学的窒素固定によりサツマイモ苗は貧栄養土壌でも高い生産性を誇る。



【従来技術・競合技術との比較】
煩雑な有望菌の単離と培養が必要でない。単体では高い機能が発揮できない細菌が報告されているが、相性のよい一般細菌と共存させて植物体に取り込むことが可能であり、実用性が高い。

- 【想定される用途】
- ・窒素肥料が削減できる
 - ・成長のよい種苗が生産できる
 - ・他の栄養繁殖作物に応用できる可能性がある

- 【想定される用途】
- ・サツマイモ種苗生産（とくに種芋生産）
 - ・良食味な観賞用サツマイモの育成
 - ・有用共生微生物の選抜・養殖・貯蔵

医療・バイオ 「宮大工の概念をハイテク技術で具現化した骨折手術支援システム」 医学部 整形外科 今出真司 助教

手術室という特殊環境下に対応した3次元精密加工機を使用し、手作業では困難な精度の形成を骨や人工骨といった医療資源に施す手術支援システムを構築した。宮大工が木組みで神社仏閣を造るように、骨で骨折を治すことを目指す。



【従来技術・競合技術との比較】
従来にない医療現場で使用できる3D加工機システムである。信頼性が高いナノ社製の精密加工機を応用する。本技術は人工骨加工にも応用でき、人工関節手術や骨欠損部補填など用途多彩である。実用化に向けて関連企業との連携を希望する。

【新技術の特徴】

- ・手術室という特殊な清潔環境下で使用可能
- ・精度は±5 μm で、独自の高い技術を提供プログラミングなど特殊技術は不要

【想定される用途】

- ・テーラーメイドの骨折治療（骨移植）
- ・精度の高い人工関節手術の支援
- ・変形した小骨片に対応可能な関節内骨折治療

2-1-2 しまねMOTセミナー初級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法（1）」

日時：平成26年12月11日（木）13:30～17:00

会場：出雲市民会館

主催：島根県，出雲市，公益財団法人しまね産業振興財団，
島根大学産学連携センター，松江工業高等専門学校

後援：出雲商工会議所

【概要】

中小企業が、自社の経営資源、特に技術を活かして、独自の製品や技術を開発し、事業として進めていくための心構えや手法について講義するとともに、身近な例で理解を深めてもらおうと、地元の企業での取り組み事例を紹介していただきました。

先ず「『経営者・技術者が開発した新製品がなぜ売れないのか』～ビジネス全体を俯瞰し「顧客価値」を「必要技術」に「翻訳する」～」と題し、株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役（島根大学産学連携センター 客員教授）の出川 通 氏に講演していただきました。

引き続き、地元の2社（大福工業株式会社環境部 部長 小村一行 氏，島崎電気株式会社 代表取締役 濱村圭一 氏）から、それぞれの企業で取り組んでいる事例について紹介していただき、その後、パネル討論形式で会場との質疑応答を行い、マーケティングの実際、開発を行う上でのポイント、企業同士や大学との連携の苦労など、生の声を伺うことができました。

出雲市や松江市など島根県東部の企業の方々を中心に約40名の参加があり、盛況でした。



講義の様子



地元企業での取り組み事例紹介の様子

2-1-3 しまねMOTセミナー中級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法（2）」

日時：平成27年1月29日(木)13:30～17:00、30日(金)9:00～16:30

会場：島根大学産学連携センター

主催：島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、
島根大学産学連携センター、松江工業高等専門学校

【概要】

MOTのマーケティングを中心に、座学に加えて自らのテーマについて演習し、その結果を参加者間で発表し議論するグループ討議を組み合わせで行いました。参加者は15名でした。参加した皆さんが、熱心に受講すると共に、活発な議論が行われ、会場が熱気に包まれるほどでした。1日目の夕方は、受講生同士や講師との交流を図るために交流会を行い、議論や質問が続けられました。

自らのテーマで演習やグループ討議を行うことで、MOTやマーケティングについての理解を深められました。また、参加者間の交流が活発に行われ、自然に異業種交流となりました。

今後もこのようなセミナーを継続し、MOTの普及に務めて行きたいと考えています。また、MOTが活かされ、地域での新事業やイノベーションの創出につながって行くことを期待しています。



演習の様子



グループ討議の様子

2-1-4 島根大学知的財産セミナー「知的財産の基礎と研究ノートの活用法」

日時：平成 27 年 3 月 3 日(火)14:30～16:30

会場：島根大学総合理工学部 1 号館 1 階 11 講義室

主催：島根大学産学連携センター

【概要】

研究現場で生まれた研究成果は、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、種苗法、著作権法等で保護することにより、大学が求められているミッションの社会還元を、円滑に遂行することができています。

ところが昨今、この研究成果の根幹を形成するデータ等に対して、改ざん、捏造がマスコミで取り上げられ世間を騒がせています。これはごくごく一部のレアなことでありながら、まっとうな研究に対してですら、いつ何時嫌疑がかけられないとも限りません。そのためにも正しいことを証明できるすべを日頃から準備しておくことに越したことはありません。その際一番強い味方になってくれるのが「研究ノート」です。その研究ノートに証拠力を持たせるためにも、実は一定のルールがあります。

そこで今回は、特許庁で長年審査・審判をやってこられた後、山口大学で知財の統括をされ、知的財産権や研究ノートの活用等に造詣の深い佐田洋一郎氏（国立大学法人山口大学 学長特命補佐・知的財産センター長）を講師に迎えて、大学の学生・研究者や関係者が知っておきたい「知財の基礎」と「研究ノートの活用法」をセットで学べるセミナーを企画しました。



2-2 後援事業

産学連携を促進するためには、研究紹介をすると共に、学内の教員と産業界の方々が知り合う機会も非常に重要です。

当センターでは、このような機会をできるだけ多く設けるため、関連する機関と連携し、様々な事業を進めています。

平成 26 年度に後援した事業について以下に紹介します。

2-2-1 産学連携学会 関西・中四国支部 第 6 回研究・事例発表会

日時：平成 26 年 12 月 5 日(金)11:00～17:50

会場：愛媛大学 城北地区キャンパス メディアホール

主催：産学連携学会 関西・中四国支部

共催：愛媛大学 社会連携推進機構

後援：島根大学産学連携センター，外

【概要】

産学連携学会 関西・中四国支部 研究・事例発表会は、地域が共有する課題を解決し、産学連携の促進に向けて産学連携の事例や研究成果について情報交換を行い、かつ、地域内の会員の交流を深めるために、当該エリアの方々が気軽に産学連携の事例の紹介や様々な研究の発表ができるように企画されたものです。



6 回目となる今回の参加者は約 45 名で、支部エリア内だけでなく、北海道や群馬、富山からの参加もあり、関心の深さが伺われました。当センターからは、北村寿宏 教授、丹生晃隆 准教授、小金民造 客員教授が参加しました。

21 件の事例や研究紹介が行われ、各発表での質疑は非常に活発で、参加者の情報交換や交流が促進されました。

発表会の後には情報交換会があり、発表会では足らなかった議論の続きが行われました。

2-3 協賛事業

産学連携を促進するためには、研究紹介をすると共に、学内の教員と産業界の方々が知り合う機会も非常に重要です。

当センターでは、このような機会をできるだけ多く設けるため、関連する機関と連携し、様々な事業を進めています。

平成 26 年度に当センターが協賛した事業について以下に紹介します。

2-3-1 多機能ナノ/メソ空間材料創出プロジェクト キックオフ講演会

日時：平成 26 年 7 月 25 日(金)14:00～17:00

会場：島根大学総合理工学部 3 号館 2 階多目的ホール

主催：島根大学研究機構戦略的研究推進センター萌芽研究部門研究プロジェクト「多機能ナノ/メソ空間材料創出プロジェクト」

協賛：島根大学ナノテクプロジェクトセンター、島根大学産学連携センター

【概要】

今年度から 2 年間の予定で、本学の萌芽研究プロジェクトとして、「多機能ナノ/メソ空間材料創出プロジェクト」がスタートしました。その発足を記念した講演会が開催され、北村寿宏 教授が参加しました。

はじめに、プロジェクトリーダーの笹井亮 准教授からプロジェクトの概要が説明されました。



続いて、兵庫県立大学大学院工学研究科の松尾吉晃 准教授が「ピラー化炭素薄膜の作製とサイズ選択的ガスセンシング」と題して、物質・材料研究機構ナノマテリアル分野 超分子ユニットの有賀克彦 ユニット長が「ナノテクの常識に挑戦：ナノ空間・分子マシンを手で操る」と題して講演をされました。

講演会終了後には、講師の方を交えて、プロジェクトのメンバーとの意見や情報の交換が熱心に行われました。

2-4 イベント等での研究シーズ発信

産学連携の促進のために、全国で様々なイベントなどが行われています。

当センターでは、本学の研究成果や研究シーズを紹介する目的で、様々なイベントなどに参加しています。平成 26 年度に参加したイベントなどについて、以下に紹介します。

2-4-1 地域イノベーション創出 2014in とっとり

日時：平成 26 年 7 月 2 日(水)13:30～15:15

会場：とりぎん文化会館 2 階小ホール

主催：中国地域産学官コラボレーション会議

【概要】

産学官連携活動を推進し、地域におけるイノベーション創出の機運を一層高めることを目的とした中国地域産学官コラボレーションシンポジウムが、今年は鳥取市を会場に開催され、本学からは、大庭卓也 センター長、北村寿宏 教授、小村陽悦 学術国際部長が参加すると共にブース展示を行い、島根大学の研究シーズやお宝研究などの冊子の配布やポスター展示により、島根大学の研究成果や産学連携の紹介を行いました。



2-4-2 イノベーション・ジャパン 2014—大学見本市&ビジネスマッチング

日時：平成 26 年 9 月 11 日(木)9:30～17:30 12 日(金)10:00～17:00

会場：東京ビックサイト 東 1 ホール

主催：(独)科学技術振興機構，(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構

【概要】

大学と産業界が持つ技術シーズとニーズの発見・出会いを目的とした国内最大級のマッチングイベントである「イノベーション・ジャパン 2014—大学見本市&ビジネスマッチング」がされました。主催者の発表によると 2 日間で 2 万人を超える来場がありました。

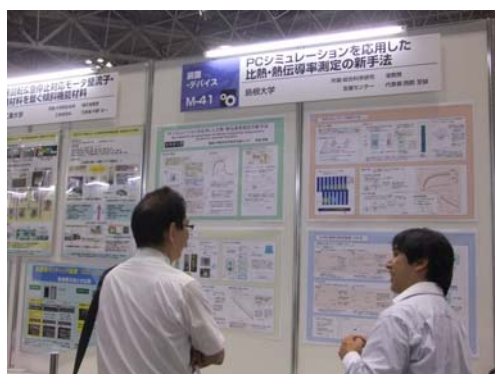
今年は、情報通信、ライフサイエンス、医療、装置・デバイス、ナノテクノロジー、環境保全・浄化、低炭素・エネルギー、マテリアル・リサイクル、シニアライフ（高

齢社会), 防災の計 10 分野から 400 件を超える大学などの研究最先端シーズが展示説明され, 各大学の研究シーズや産学連携への取り組みの一端を感じることができました。

島根大学からは, 総合科学研究支援センターの西郡至誠 准教授が装置・デバイス分野に出展し, 「PCシミュレーションを応用した比熱・熱伝導率測定の新手法」について研究シーズを紹介しました。「PCシミュレーションを応用した比熱・熱伝導率測定の新手法」は, 液体に浸漬した状態で円柱形の試料の片方の面を加熱しながら両端面の中心の温度変化を測定し, この結果を数値解析的手法 (FEM) によりパソコンでシミュレートすることにより, 試料と液体の両方の比熱と熱伝導率をそれぞれに求めることができる方法です。従来の方法と異なり, 液体の比熱や熱伝導率を求めることができる, 加圧下や低温下でも測定可能である, という特徴を持っています。

当日は, 企業の方を中心に多くの関係者の方が来られ, 測定法そのものに興味を持って頂けただけでなく, 「こんな物質の熱伝導率を測定できないか, 測定して欲しい」など, 熱伝導率の測定そのもののニーズの高いこともわかり, 研究そのものをPRできました。

他に島根大学からは, 竹内 潤 副学長, 小村陽悦 学術国際部長が, また, 産学連携センターからは, 大庭卓也 センター長, 阿久戸敬治 教授, 北村寿宏 教授, 中村守彦 教授, 丹生晃隆 准教授, 小金民造 客員教授が参加し, 出展ブースでの情報収集ならびセミナーに参加しました。



2-4-3 山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2014

日時：平成 26 年 9 月 26 日 (金) 10:10～15:45

会場：米子コンベンションセンター BIG SHiP 1F 情報プラザ

主催：とっとり産業フェスティバル 2014 実行委員会, 中国地域産学官連携コンソーシアム

【概要】

「とっとり産業フェスティバル 2014」の催しとして「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2014」が開催され, 本学から, 医学部 腫瘍生物学講座の松崎有未 教授が「超高品質なヒト間葉系細胞を用いた再生医療戦略」について発表すると共に, 阿久戸敬治 教授, 中村守彦 教授, 丹生晃隆 准教授が参加しました。

2-4-4 第4回おおた研究・開発フェア

日時：平成26年10月1日(木)9:45～17:00, 2日(金)10:00～17:00

会場：大田区産業プラザPi0

主催：大田区, 公益財団法人大田区産業振興協会

【概要】

モノづくりのまち「大田区」において、学術分野と産業界の技術シーズとニーズの交流の場となる展示会「第4回おおた研究・開発フェア」が開催されました。

主な出展者は、大田区企業・全国の企業・大学・高専・研究機関・台湾政府研究機関・台湾企業・米国州政府で、約100のブース展示が行われ、それぞれ最新の研究開発成果や新製品、新技術が紹介されました。

島根大学からは、総合理工学研究科の李 樹庭 准教授（機械設計研究室）が出展し、「先端機械装置を支える機械要素の設計・強度解析技術」について研究成果の紹介を行いました。李准教授は、歯車の解析や設計を専門としており、当日は歯車装置設計専用FEM(有限要素法)解析ソフトやそれを用いた解析事例の紹介, SolidWorks, AutoCADを用いた先進的な歯車装置の自動設計計算, 自動製図ソフトなどの紹介を行いました。ものづくり企業の方など多数の来訪者があり、研究成果をPRできました。

産学連携センターからは、北村寿宏 教授が参加し、李先生の展示をサポートすると共に、企業ニーズや各大学の産学連携活動などの情報収集を行いました。



2-4-5 アグリビジネス創出フェア 2014

日時：2014年11月12日(水)～14日(金)10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 西4ホール

主催：農林水産省

【概要】

全国の産学の各機関の有する農林水産・食品分野などの最新技術や研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す「技術・交流展示会」として「アグリビジネス創出フェア 2014」が開催されました。

本学からは、「農林水産の六次産業化プロジェクトセンター」が出展し、丹生晃隆 准教授もメンバーとして加わって、当該センターで取り組んでいる研究やその成果から実用化されたおろち大根、芋焼酎、柿ドリンク、エゴマ利用などについて紹介しました。非常に多くの方が訪れ、関心を持っていただけました。

また、北村寿宏 教授も参加し、各大学の産学連携活動などの情報収集を行いました。

2-5 他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動

産学連携を円滑に効果的に進めるためには、ネットワークが非常に重要です。当センターでは、様々な機会を利用し、全国の大学とのネットワーク、産学連携従事者間のネットワーク、産学連携に携わっている各機関とのネットワークを構築し、つながりを深めるために各種の会議に出席しています。

また、大学で生まれる研究成果を社会で活かせるようにつないでいくためには、社会における関連する技術の動向が非常に重要です。これらの技術情報や動向に関する情報を収集し把握する目的で、各種の学会や講演会などに参加しています。

平成 26 年度に行った連携活動について、以下に紹介します。

2-5-1 平成 26 年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議

日時：平成 26 年 5 月 20 日(火)14:00～17:00

会場：岡山大学 本部棟 6 階 第 1 会議室

【概要】

阿久戸敬治 教授が出席しました。

次第
1. 開会の挨拶
2. 平成 25 年度事業報告
3. 平成 25 年度外部評価委員会報告
4. 平成 26 年度の活動について
(1) CPASNet データ更新について
(2) 知財セミナーのWEB 中継について
(3) さんさんコンソ新技術説明会について
(4) 産から学へのプレゼンテーション中国地域版の開催について
(5) WizBiz 社との連携について
(6) 企画委員会(仮称)について
5. 質疑応答及び意見交換
6. 「大学における営業秘密管理指針作成のためのガイドライン」について
7. 閉会の挨拶

2-5-2 一般財団法人コラボ産学官 第6回本部通常総会および記念講演会

日時：平成26年6月12日(木)14:30～17:15

会場：コラボ産学官プラザ inTOKYO 2階大ホール

【概要】

一般財団法人コラボ産学官の第6回本部通常総会が開かれ、新役員が選任されたと共に、常任理事が承認されました。

総会に続いて記念講演会があり、東京都市大学 北澤宏一 学長が「これからの10年～新しいステージに入った産学官連携～」と題して講演をされました。

いずれも、大庭卓也 センター長の代理として小金民造 客員教授が出席しました。

2-5-3 まつえ産業支援センター開所1周年記念講演会

日時：平成26年6月19日(木)15:00

会場：テクノアークしまね 本館4階

【概要】

平成25年6月に開所された「まつえ産業支援センター」の1周年を記念した講演会が開催され、大庭卓也 センター長が出席しました。

2-5-4 産学連携学会第12回大会

日時：平成26年6月25日(水)～27日(金)

会場：下諏訪総合文化センター

【概要】

産学連携学会の定期大会である第12回大会が、6月25日～27日に、長野県の下諏訪町で開催され、当センターからは北村寿宏教授、中村守彦教授、丹生晃隆 准教授が参加しました。

150件を超える研究成果の発表や招待講演、ダイアログセッション、ポスターセッションが行われ、多数の参加者もあり盛況でした。

25日には丹生晃隆 准教授が、「産学連携による新規抗体材料の研究開発—新技術説明会でのマッチングから実用化に向けた研究開発—」と「特許情報を活用した産学連携支援ツールの提案」をテーマに発表しました。

26日には北村寿宏 教授が「国立大学法人における共同研究1件当たりの研究費受入額の分析」をテーマに、中村守彦 教授が「産学連携による高校・大学・大学院の学術融合教育の実践」をテーマに発表しました。



2-5-5 教育学部自然環境教育講座研究懇話会 講演

日時：平成 26 年 6 月 30 日(月)9:00～10:00

会場：島根大学教育学部 多目的理科教材開発室 322 号室

【概要】

「初歩の知的財産講座（特許を中心にして）」と題して、特許や商標、意匠を中心に北村寿宏 教授が講演しました。

当日は、ペットボトルの形状の変化を例にあげ、企業活動を行う上で、どのように知的財産を守っていくのかということを中心に、話をしました。

商標では、「白い恋人」を例に、また、意匠では「スーパーカブ」を例にして、身近なところから知的財産の重要性や保護の仕方について、説明しました。

特許や商標、意匠だけでなく、著作権に関することにも触れながら話を進めたところ、質問も多く、好評でした。また、教育学部の学生とあつて、教育現場における著作権についてより多く興味を持っていることがわかりました。



2-5-6 中国地域産学官コラボレーション会議 第 13 回全体会議

日時：平成 26 年 7 月 2 日(水)11:30～12:20

会場：とりぎん文化会館 2 階 第 2 会議室

【概要】

産学官連携活動を次のステップへと進めるべく、新結合プランを総括し、新たな行動指針等を取り纏める「中国地域産学官コラボレーション会議」の第 13 回全体会議が開催され、本学からは、大庭卓也 センター長、北村寿宏 教授、小村陽悦 学術国際部長が出席しました。



2-5-7 大阪冶金会講演会

日時：平成 26 年 7 月 5 日(土)14:00～16:00

会場：大阪大学 工学部 材料開発物性記念館 2階 研修室

【概要】

平成 26 年度大阪冶金会総会・講演会・懇親会が開催されました。講演会には、大阪大学の材料系の卒業生を中心に企業や大学関係者約 40 名が参加しました。

講演会では北村寿宏 教授が、「地方大学の産学連携の現状と今後の展開～島根大学を例に～」と題して講演し、自己紹介をかねて島根大学や産学連携センターの紹介を行うと共に、共同研究の件数や研究費受入額のデータを整理分析した結果から、共同研究が大規模大学や大企業に集中しつつある現状を説明し、その理由が共同研究

の特質から推測されることについて触れ、今後、企業や大学などの研究者の人材育成が重要であることを述べました。さらに、島根大学と地元企業との連携の実例について紹介しました。

またこの他に、株式会社神戸製鋼所の野澤健太郎 氏による「神戸製鋼所における製銑プロセス開発の過去、現在、そして未来」と題した講演も行われました。



2-5-8 平成 26 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議

日時：平成 26 年 7 月 17 日(木)13:00～17:00

会場：徳島大学 産学官連携プラザ 3階 日亜ホール

【概要】

徳島大学の当番により、「平成 26 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議」が開催され、北村寿宏 教授、学術国際部研究協力課の江藤 誠 サブリーダーをはじめ、中国・四国地区の国立大学法人で産学連携を推進しているセンターや機構の、センター長や教員、担当事務スタッフなど約 30 名が出席しました。

徳島大学の野地理事（研究担当）による開会挨拶の後、文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課の塚本英則 大学技術移転推進室長補佐が「産学官連携の現状と今後の展望」と題して講演され、産学連携のこれまでの経緯や共同研究や特許などの実績、イノベーションの創出に向けた最近の文部科学省における取り組みを



中心にお話されました。続いて、一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン 佐藤大吾 代表理事が「新しい研究資金の獲得について」と題して講演され、クラウドファンディングの実状についてお話されました。

その後、「共同研究センターのあるべき将来像」をテーマに、各大学から、組織の変遷や現在の取り組み状況について紹介し、意見交換しました。

2-5-9 航空機産業ビジネスセミナー

日時：平成 26 年 8 月 28 日(木)14:15～17:00

会場：松江東急イン

【概要】

島根県では、平成 26 年度特殊鋼産業クラスター高度化推進事業の一環として、「航空機産業の現状と今後の展開」をテーマとする航空機産業ビジネスセミナーを開催され、大庭卓也 センター長が参加しました。

2-5-10 第 26 回国立大学法人共同研究センター長等会議

日時：平成 26 年 9 月 25 日(木)14:00～19:30、26 日(金)9:30～11:20

会場：北見工業大学

【概要】

北見工業大学により、「第 26 回国立大学法人共同研究センター長等会議」が開催され、北村寿宏 教授と小村陽悦 学術国際部長が出席しました。

この会議には、全国の国立大学法人に設置されている共同研究センター等のセンター長、専任教員、担当事務など約 200 名が出席しました。

1 日目には、文部科学省 科学技術・学術政策局 木村直人 産業連携・地域支援課長が、「産学官連携の現状と共同研究センターへの期待」と題して基調講演をされました。

基調講演に続いて二つの分科会（分科会 A 「将来に向けた共同研究センター等の役割・機能」、分科会 B 「社会連携の多様性及び地域固有課題への対応」）が行われ、分科会 A の中で、島根大学が教育を中心とした活動事例を紹介しました。その後、全体で意見交換や議論がなされ、産学連携を担うセンターも地域貢献活動や教育活動など幅広い活動を担っていることがわかりました。

2 日目には、丸玉産業株式会社 大越敏弘 代表取締役社長が、「地域資源の有効活用」と題して講演され、企業での新事業の展開や研究・開発の取り組みについて紹介されました。



2-5-11 大企業ニーズ提示型ビジネスマッチング ニーズ説明会

日時：平成 26 年 10 月 7 日(火) 14:00～16:30

会場：米子コンベンションセンター

【概要】

株式会社ケイエスピーによる「大企業ニーズ提示型ビジネスマッチング ニーズ説明会」が開催され、北村寿宏 教授と丹生晃隆 准教授が出席しました。

2-5-12 島根大学法人 10 周年記念事業

日時：平成 26 年 10 月 11 日(土)

会場：島根大学 大学会館 3 階 大集会室

【概要】

本学の法人化 10 周年を記念した式典が開催され、北村寿宏 教授と丹生晃隆 准教授が出席しました。

式典では、独立行政法人科学技術振興機構 泉 紳一郎 社会技術研究開発センター長による「地方総合大学のイノベーションへの貢献－島根大学への期待－」と題した記念講演、本学の COC 事業の紹介、R u b y プログラミング甲子園の表彰式がありました。

2-5-13 InterOpto 2014

日時：平成 26 年 10 月 15 日(水)～17 日(金) 10:00～17:00

会場：パシフィコ横浜

主催：一般財団法人光産業技術振興協会

【概要】

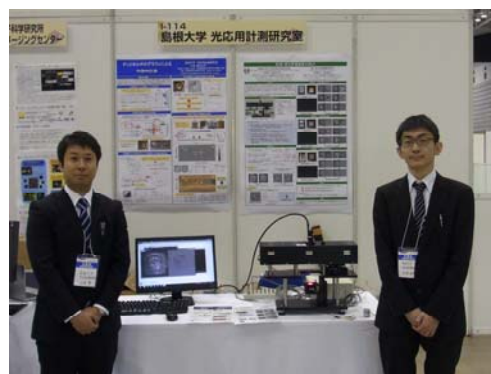
国内外のフォトニクス製品・技術が集結する先端光技術の国際総合展である

「InterOpto」が開始され、3 日間で 8467 人の来場者がありました。

本学からは、総合理工学研究科の光応用計測研究室の横田正幸 准教授が出展し、ディタルホログラフィーを用いた塗料や接着剤の乾燥・硬化評価装置の展示を行いました。

この評価装置によって、塗料や接着剤等の乾燥、硬化の状態を非接触かつ定量的にモニタリングすることができます。また、光学的手法では評価できなかったクリアー塗料の評価も可能となります。

今回展示した評価装置の開発にあたって横田准教授は、平成 23 年度に、科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 探索タイプに採択されました(課



題名：デジタルホログラフィーを用いた塗料乾燥評価装置の開発)。続いて、平成25年度には、共同研究先である株式会社東洋精機製作所と連名で申請し、シーズ顕在化タイプに採択されました（課題名：デジタルホログラフィーによる乾燥・硬化評価装置の開発）。

展示ブースでは、ポスターや評価装置の展示だけでなく、実際の塗料の乾燥・硬化過程の評価についてデモも行われました。今までにない非接触かつ定量的に測定・モニタリングができる技術として、塗料や接着剤を製造工程で用いるメーカー、測定・分析機器メーカー、レーザーや光源開発企業等から大きな関心を持っていただきました。また、塗料の乾燥や硬化状態の評価について、製造現場におけるニーズについても貴重な情報収集をすることができました。

開期中には、二つの採択に担当コーディネーターとして関わった丹生晃隆 准教授も参加しました。

2-5-14 しまね企業交流会

日時：平成26年10月17日(金)16:30～19:30

会場：くにびきメッセ

【概要】

島根への誘致企業と地元企業との交流を目的に始められた「しまね企業交流会」は今回で8回目の開催となり、関係者など約70名が参加する中、大庭卓也 センター長、北村寿宏 教授、丹生晃隆 准教授、池淵昇平 特任教授が参加しました。

601 会議室で行われた第一部では大庭センター長と北村教授が、大学との連携の促進を目的に、「島根大学の教育・研究と産学連携」をテーマに発表し、島根大学の紹介や産学連携のきっかけ作りなどについて説明しました。

501 会議室で行われた第二部では、多くの企業の方と交流を深めると共に、研究シーズのパネル展示、そしてシーズ集やセンターパンフレット等の配布を行い、島根大学のPRに努めました。



2-5-15 コラボ産学官設立 10 周年記念フォーラム

日時：平成 26 年 10 月 20 日(月)13:30～17:15

会場：タワーホール船堀 5 階 小ホール

【概要】

「産学金官連携活動 こらからの 10 年を展望する」をテーマに開催された、コラボ産学官の設立 10 周年を記念したフォーラムに小金民造客員教授が参加し、産学連携の動向を調査しました。

2-5-16 特許・情報フェア&コンファレンス 2014

日時：平成 26 年 11 月 5 日(水)～7 日(金)

会場：科学技術館 東京・北の丸公園

主催：一般社団法人発明推進協会，一般財団法人日本特許情報機構，
フジサンケイビジネスアイ，産経新聞社

【概要】

特許情報および知的財産関連の我が国最大の専門見本市である，特許・情報フェア&コンファレンスが開催され，島根大学の知的財産活動に資する観点から，阿久戸敬治 教授が参加しました。

2-5-17 産学連携学会平成 26 年度秋季シンポジウム

「超高齢社会での事業創造～高齢者 QOL 向上を目指したイノベーション」

日時：平成 26 年 11 月 14 日(金)13:30～18:45

会場：芝浦工業大学 芝浦キャンパス 8 階 802 教室

主催：産学連携学会

【概要】

今後，高齢者が増える中で高齢者市場が急速に拡大すると予測されており，国内市場規模は既に 100 兆円に達し，今後も毎年 1 兆円増加し続けるとの推計もあります。産学連携により高齢者市場で新しい事業を創造していくための，ポイントや事例を紹介するシンポジウムが開催され，北村寿宏 教授が参加しました。

まず，「高齢者市場の現状と展望」と題して，ニッセイ基礎研究所の前田展弘 氏による基調講演があり，高齢者市場についての概要が紹介されました。

続いて，3 社から事例が紹介されました。

ナカシマメディカルの中島義雄 氏からは，「産学連携で医療機器開発」と題して，ものづくり系企業が医療分野に新事業展開した経緯や苦労した点などが紹介されました。

バリオン介護環境研究所の金沢善智 氏からは，「拡大する「医療・介護」マーケッ

トに欠かせないコーディネーター，そしてビジネス・ファインダー ー元大学教員，そして起業家としての視点」と題して，介護分野における事業展開の事例を，大学教員の経験も踏まえて紹介されました。

コガソフトウェアの古賀詳二 氏からは，「孝行デマンドバスとメディカルフィットネスで国民の健康寿命を延伸させたい」と題して，高齢者の健康維持での事業展開の事例を紹介されました。

その後，パネル討論が行われ，高齢者市場での新事業展開について，産学連携も含め様々な観点から議論が交わされました。



基調講演



パネル討論

2-5-18 グローバル知的財産戦略フォーラム 2015

日時：平成 27 年 1 月 26 日(月)10:00～17:30, 27 日(火)10:00～17:20

会場：セルリアンタワー東急ホテル

主催：特許庁，独立行政法人工業所有権情報・研修館

【概要】

「明日のグローバル知財活用戦略を考える」をコンセプトに開催された「グローバル知財戦略フォーラム 2015」に，島根大学の知的財産活動に資する観点から，阿久戸敬治 教授が参加しました。

2-5-19 中国地域産総研技術セミナーin 島根

日時：平成 27 年 1 月 27 日(火)13:40～

会場：テクノアークしまね

主催：独立行政法人産業技術総合研究所中国センター，島根県産業技術センター

【概要】

独立行政法人産業技術総合研究所における，「ゼオライト」及び「ナノセルロース」の関連技術について最新の研究成果が紹介され，北村寿宏 教授が参加し情報収集しました。

2-5-20 平成 26 年度大学－JST 意見交換会

日時：平成 27 年 2 月 17 日(火)13:30～17:05

会場：メルパルク大阪 5 階 カナール

【概要】

大学と独立行政法人科学技術振興機構による意見交換会が開催され、阿久戸敬治 教授が出席しました。

2-5-21 シンポジウム「地域企業による「大学活用の成功事例」と「大学の使い方」

日時：平成 27 年 2 月 23 日(月)

会場：北見工業大学 第 1 総合研究棟 2 階 多目的講義室

【概要】

平成 27 年 2 月 23 日(月)に北見工業大学で開催された産学連携学会北海道支部シンポジウムに北村寿宏 教授と丹生晃隆 准教授が参加しました。このシンポジウムでは、「あなたも大学を利用しませんか」をテーマに、基調講演、パネルディスカッションが行われました。

「川崎の中小企業による大学活用の成功事例」と題して、公益財団法人川崎市産業振興財団の櫻井 亨 氏が基調講演を行い、川崎市での産学連携の歴史や中小企業と大学との連携で実用化された事例が紹介されました。

続いて、「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」をテーマにパネルディスカッションが、丹生 准教授がパネラーとして参加し、島根大学での産学連携活動や地元企業との連携事例を紹介しました。

2-5-22 国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議

日時：平成 27 年 3 月 6 日(金)13:30～17:00

会場：松江テルサ 4 階 中会議室

【概要】

全国の国立大学法人で産学連携に携わっている教員等が集まり、産学連携の課題の議論や意見交換を行う「国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議」を、島根大学の担当で開催し、北は北見工業大学から南は鹿児島大学まで、全国各地の産学連携担当者 26 名が集まりました。



各人の自己紹介を行った後、提案された議題について議論、意見交換を行いました。今回は、共同研究の促進について、教員の知的財産創出への意識向上策について、

産学連携センターの組織の変化について、大学の広報戦略と共同研究センターが行う広報活動についてなど6つの議題について、議論、意見交換を行いました。

会議後は、情報交換会が行われ、議論の続きが活発に行われました。

2-5-23 国立大学法人共同研究センター等教員会議

【概要】

全国の「共同研究センター」の教員が集まり産学連携に関する情報交換や議論を行う「国立大学法人共同研究センター等教員会議」が、今年度は、秋田大学の当番で執り行われ、この企画運営を協議する幹事として、北村寿宏 教授が携わりました。

第2回幹事会
日時：平成26年1月8日(水)
会場：キャンパス・イノベーションセンター東京 リエゾンスペース 509(5階)
会議の分科会について議論しました。基本的に参加者同士で議論する場を設けることを確認しました。また、テーマについて様々な角度から意見を交わしました。

第3回幹事会
日時：平成26年2月21日(金)
会場：北見工業大学社会連携推進センター内会議室
会議日程や分科会のテーマについて議論しました。

文部科学省訪問
日時：平成26年7月10日(木)
会場：文部科学省
文部科学省を訪問し、大学技術移転推進室の塚本室長補佐に、会議の趣旨説明と基調講演の依頼をしました。 また、訪問前に事前打ち合わせを行い、会議で実施される分科会の趣旨や主査などについて検討しました。

第27回国立大学共同研究センター等教員会議
日時：平成26年8月28日(木)13:00~19:50, 29日(金)9:00~12:00
会場：秋田大学 VBL 棟 2階大セミナー室



全国の国立大学に設置されている産学連携を担当している組織の教員が集まり、情報交換や意見交換を行う「国立大学法人共同研究センター専任教員会議」に、北村寿宏 教授、中村守彦 教授が出席しました。

第27回となる今回は、秋田大学の当番により開催され、全国からセンターの専任教員約55名が集まり、様々な意見交換や議論を行いました。

全体会議では、文部科学省産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室の塚本英則室長補佐から、「未来を創る産学官連携」と題し、産学連携のこれまでの経緯や現状、現在進められている施策などの紹介がありました。

今回は、「未来志向の産学官連携を考える」と題して以下の3つの分科会が行われました。

分科会1「共同研究センター教員が今すぐすべきこと-5年以内を目標に」

分科会2「地域（社会）に対してできること-10年先を見つめて」

分科会3「これからの人達に望むこと-20年後の未来に向けて」



中村教授は分科会1に参加しました。

北村教授は分科会2に参加し、10年後を見据えて、現状の問題点や課題について情報交換し、議論を行いました。その中で、学内に類似する多くの組織ができ、その意思疎通も十分で無く複雑化していることや、産学連携活動の評価の問題があげられました。また、産学連携部隊の10年後としては、財政的な自立や教育・研究への貢献、産学連携を通じた人材育成などの活動も必要であるとの意見が出されました。

成などの活動も必要であるとの意見が出されました。

2-5-24 第17回鳥根県学生児童発明くふう展

【概要】

一般社団法人鳥根県発明協会による、発明奨励振興事業の一環として、地域の将来を担う児童生徒に発明くふうの楽しさを体験してもらうとともに、優れた発明くふう作品を顕彰し、創造性豊かな人間形成を図ることを目的とした、鳥根県学生児童発明くふう展が今年度も開催されました。

10月2日(木)に、テクノアークしまねで行われた審査会には、阿久戸敬治 教授が審査委員として出席しました。

10月18日(土)に、くにびきメッセで行われた表彰式には、大庭卓也 センター長が出席し、鳥根大学学長賞を1名に、鳥根大学産学連携センター長賞を3名に授与しました。

2-5-25 産学官連携に関する情報・意見交換

会場：鳥根大学産学連携センター（松江地区）及び鳥根県庁

【概要】

鳥根県 産業振興課と公益財団法人しまね産業振興財団 技術支援課の担当者と、鳥根大学との産学官連携に関する情報・意見交換を、9回に亘って行いました。

2-5-26 島根大学・ごうぎん 情報交換会

会場：島根大学産学連携センター（松江地区）及び総合理工学部 2 号館

【概要】

山陰合同銀行との情報交換会を 5 回に亘って行いました。

本学の研究シーズ紹介として、総合理工学研究科 船木修平 助教，生物資源科学部 佐藤利夫 教授，生物資源科学部 増永二之 教授に発表していただきました。

山陰合同銀行からは，企業のニーズを紹介していただきました。

2-5-27 その他の打合せ

<p>日時：平成 26 年 5 月 13 日(火) 会場：産学連携センター(松江地区)</p> <p>産総研中国センターの柳下宏 センター長，中村修 上席イノベーションコーディネーター（前センター長），井上正人 副センター長，山崎様が来訪され，北村寿宏 教授が対応しました。</p>
<p>日時：平成 26 年 6 月 16 日(月) 会場：産学連携センター(松江地区)</p> <p>ちゅうごく産業創造センターの中野 様 他一名が来訪され，大庭卓也 センター長と丹生晃隆 准教授が対応しました。</p>
<p>日時：平成 26 年 6 月 30 日(月) 会場：理事室</p> <p>山陰合同銀行の副頭取と部長が来訪され，竹内 潤 理事，大庭卓也 センター長，北村寿宏 教授が対応しました。</p>
<p>日時：平成 26 年 7 月 30 日(水) 会場：学長室</p> <p>ちゅうごく産業創造センターの会長交代にともない，岩崎恭久 会長，佐原一弘 専務理事，奥本芳治 常任理事が本学を表敬訪問され，小林祥泰 学長と大庭卓也 センター長が対応しました。</p>
<p>日時：平成 26 年 8 月 19 日(火) 会場：産学連携センター(松江地区)</p> <p>ちゅうごく産業創造センター 加藤恵一 企画部長 他二名が来訪され，大庭卓也 センター長と北村寿宏 教授が平成 27 年度新産業創出研究会の説明を受けました。</p>
<p>日時：平成 27 年 3 月 10 日(火) 会場：産学連携センター(松江地区)</p> <p>広島大学の野村武司 産学官連携コーディネーターと平田和久 産学官連携コーディネーターが来訪され，北村寿宏 教授が対応しました。</p>

2-6 各種外部委員活動等

産学連携を行うために、あるいは、産学連携で得た知識や経験を社会に活かすために、センターの各教員が公的な委員会などの活動に協力しています。

平成 26 年度に協力した委員会活動等の一覧とその活動の一部を以下に紹介します。

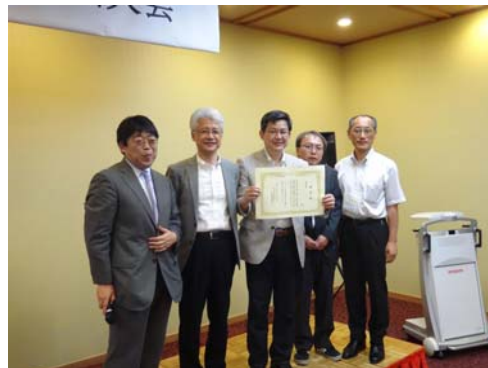
氏名	連携機関	連携内容
大庭卓也 教授	一般社団法人コラボ産学官	理事
	島根県産業技術センター	島根先端電子技術研究拠点運営委員会
		研究課題外部評価委員
	島根県中小企業団体中央会	平成 25 年度ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業地域採択委員
	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金助成金運営委員会 委員
	松江市産業観光部まつえ産業支援センター	松江市ものづくり振興会議委員
	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	評議員
	しまね地域産業活性化協議会	しまね地域産業活性化協議会 委員
	一般社団法人島根県発明協会	第 17 回島根県学生児童発明くふう展の贈賞者
	松江工業高等専門学校	外部評価委員会 委員
特定非営利活動法人 21 世紀出雲産業支援センター	出雲産業フェア実行委員会 委員	
阿久戸敬治 教授	一般社団法人島根県発明協会	第 17 回島根県学生児童発明くふう展 審査員
北村寿宏 教授	株式会社全国鉄骨評価機構	鉄骨製作工場性能評価員
	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金助成金審査会 委員
	独立行政法人科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム専門委員
	特定非営利活動法人産学連携学会	総務委員会 委員
		関西・中四国支部 代表, 事務局 学金連携システム研究会 幹事
リスクマネジメント研究会	幹事	
丹生晃隆 准教授	独立行政法人科学技術振興機構	産学官連携ジャーナル編集委員会 委員

2-7 受賞

2-7-1 産学連携学会功労賞を受賞

北村寿宏 教授が参加している産学連携学会学金連携システム研究会が、平成 26 年 6 月 25 日～27 日に長野県で開催された第 12 回産学連携学会総会において、功労賞を受賞しました。

同研究会が非常に活発に活動していること、開催回数が既に 11 回に上ること、従来の産学官連携に金に加わった産学官金連携の豊富な事例研究を行い、金に加わることの効果を浮き彫りにしたことにより社会での産学官金の重要性を高めるのに大きく貢献したことが受賞の理由に上げられました。



2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動/産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

2-8. 産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

産学連携による研究・開発活動を促進するために、様々な公的な助成制度を活用しています。

平成26年度に、当センターのスタッフがコーディネートし、直接申請に係わり採択に至った競争的資金の一覧です。

2-8-1 独立行政法人科学技術振興機構 平成26年度「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)」

フィージビリティスタディ(FS)ステージ「探索タイプ」

ビジョン・重点分野 研究課題	研究者	コーディネーター
【活気ある持続可能な社会の構築】 ナノ・材料分野 青緑色～赤色領域で発光する高輝度オルガノゲル媒質の開発	教育学部 西山 桂 准教授	北村寿宏 教授
【活気ある持続可能な社会の構築】 グリーンイノベーション分野 太陽光発電機能を有する植物栽培ガラス温室屋根材の最適化に関する研究	生資源科学部 谷野 章 教授	北村寿宏 教授
【少子高齢化先進国としての持続性確保】 社会基盤分野 菌床椎茸における植氷凍結を利用したナガマドキノコバエの防除	生物資源科学部 泉洋 平 助教	丹生晃隆 准教授
【少子高齢化先進国としての持続性確保】 ライフイノベーション分野 タンパク質の調理加工特性を活用した嚥下困難者用食品の開発	教育学部 鶴永陽子 准教授	丹生晃隆 准教授

2-8-2 公益財団法人しまね産業振興財団－技術革新支援総合支援事業－

※技術シーズ育成支援事業

研究課題	研究者	コーディネーター
希土類錯体をオルガノゲル中に分散させた波長可変連続発振(CW)レーザー媒質(485nm～650nm)の開発	教育学部 西山 桂 准教授	北村寿宏 教授
コエンザイムQ10含有食品の開拓と生産微生物の探索	生物資源科学部 川向 誠 教授	丹生晃隆 准教授
天然セルロース系ナノコンポジットに基づく中間材料の作製に向けた研究	総合理工学研究科 中井毅尚 准教授	北村寿宏 教授
エゴマ油の粉末化と酸化安定性向上技術の開発	生物資源科学部 吉清恵介 助教	丹生晃隆 准教授
海水から硝酸イオン・亜硝酸イオンを選択除去可能な層状複水酸化物の創製	総合理工学研究科 笹井 亮 准教授	北村寿宏 教授

2-9 広報活動

当センターでは、研究紹介や産学連携に関する情報提供を行うために、ホームページやメールマガジンの運用、研究者情報誌や研究シーズ集の発行など様々な広報活動を行っています。

平成 26 年度に行った主な広報活動を以下に紹介します。

2-9-1 島根大学研究シーズ集追加作成

研究成果を何に利用できそうかという視点で、産業界の方々に島根大学で行っている研究内容をわかりやすく紹介する目的で、平成 18 年度に島根大学研究シーズ集を作成した。

今年度は 4 シーズ追加作成し、同時に Web 上にも掲載した。

【アドレス <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/res-pr/seeds02/home.htm>】

発行月	研究者	研究シーズのテーマ
6 月	医学部 今出真司 助教 内尾祐司 教授	宮大工の概念をハイテクで具現化した骨折手術支援システム
6 月	生物資源科学部 足立文彦 助教 井藤和人 教授 門脇正行 准教授	共生微生物を利用した高い生産能力を持つサツマイモ種苗生産方法
6 月	生物資源科学部 上野 誠 准教授	光照射による植物病害の防除法の開発
6 月	総合理工学研究科 船木修平 助教	銅酸化物系高温超伝導膜の低温かつ簡易的な作製方法

2-9-2 メール配信

当センターが主催する行事や関連イベント、研究情報など産学連携に関する様々な情報を、学内外に電子メールで配信しています。学外に向けては、「島根大学産学連携センターニュース」を登録者 706 名に（今年度末現在）配信しました。

※ 産学連携センター主催・共催・後援・関係事業等

配信日	配信先	題名
6/5	学外・学内	「山陰（鳥取・島根）発 新技術説明会」開催のご案内
7/7	学外	島根大学 平成 26 年度 萌芽研究部門研究プロジェクト 「多機能ナノ/メソ空間材料創出プロジェクト」キックオフ講演会 開催のご案内
9/3	学外	「イノベーション・ジャパン 2014」出展のご案内
9/29	学外	「おおた研究・開発フェア～産学連携・新技術展～」出展のご案内
10/27 12/1	学外・学内	MOT セミナー「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」 開催のご案内
12/26 1/20	学外・学内	MOT セミナー【実例と演習】「顧客価値と技術から展開する新商品・ 事業開発手法」開催のご案内

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 広報活動

2/10	学外・学内	島根大学知的財産セミナー「知的財産の基礎と研究ノートの活用 法」開催のご案内
------	-------	---

※関連機関主催等

配信日	配信先	題名	主催等
5/8	松江地区全教員	放電プラズマ焼結法をテーマとするフォー ラム「MACKIY」開催のご案内	島根県産業技術センタ ー
6/23	松江地区全教員	シンポジウム「地域イノベーション創出 2014 in とっとり」の開催について	中国地域産学官コラボ レーション会議
11/12	学外	「NEDO フォーラム 2014 in 中国」	(独)新エネルギー・産 業技術総合開発機構

※助成金情報

配信日	配信先	題名
7/4	松江地区全教員	平成 26 年度 JST「研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)・探 索タイプ」の公募について

※出展者募集等

配信日	配信先	題名
4/7	松江地区全教員	「イノベーション・ジャパン 2014-大学見本市」の出展者募集につ いて
5/26	松江地区全教員	「第 4 回おおた研究・開発フェア～産学連携・新技術展～」の出展 者募集について
9/30	松江地区全教員	「中国地域自動車関連技術シーズ提案会」での提案者募集について

3 平成26年度科学技術相談（松江地区の担当分）

地域に開かれた大学の窓口として、大学の持つ専門知識や研究成果を地域に還元し、その発展に寄与するために、科学技術の相談等に無料で応じています。

平成26年に当センター松江地区で対応した科学技術相談の件数は、下記のとおりです。

平成26年度の科学技術相談の件数：50件

【地域別】

島根県内（東部 20件，西部 3件）	23件
島根県外	27件

【対応組織別】

法文学部	0件
教育学部	1件
総合理工学研究科	11件
生物資源科学部	18件
産学連携センター	20件

4 平成26年度共同研究一覧

平成25年度に実施された共同研究(97件)について担当した教員と研究分野を一覧にしています。

学部 (件数)	研究代表者	分野ごと区分 (件数)	研究代表者	分野ごと区分 (件数)
学 法 部 文 (3)	野田哲夫 教授	情報 (2)		
教 育 学 部 (4)	百合田真樹人 准教授	その他 (1)	作野広和 教授	その他 (1)
	高橋哲也 教授	ライフ (1)	鶴永陽子 准教授	ライフ (1)
医 学 部 (26)	塩飽邦憲 教授	ライフ (1)	橋本道男 准教授	ライフ (1)
	浦野 健 教授	ライフ (3)	松崎有未 教授	ライフ (1)
	杉本利嗣 教授	ライフ (1)	山本昌弘 助教	ライフ (1)
	山口修平 教授	ライフ (2)	森田栄伸 教授	ライフ (1)
	内尾祐司 教授	ライフ (1)	京 哲 教授	ライフ (3) その他 (1)
	中谷俊彦 教授	ライフ (1)	関根浄治 教授	ナノ・材 (1)
	熊倉俊一 教授	ライフ (1)	北垣 一 教授	ライフ (1)
	医学部附属病院 三島清司 副臨床検査 技師長	ライフ (4)	医学部附属病院 糸賀修也 臨床工学 技士長	情報 (2)
生 物 資 源 科 学 部 (25)	松崎 貴 教授	ライフ (5)	秋廣高志 助教	ライフ (1)
	澤 嘉弘 教授	ライフ (1)	横田一成 教授	ライフ (1)
	川向 誠 教授	ライフ (1)	浅尾俊樹 教授	ライフ (3)
	伊藤勝久 教授	環境 (1)	米 康充 准教授	社会 (1)
	荒瀬 榮 教授	ライフ (1)	上野 誠 准教授	環境 (1)
	宋 相憲 助教	ライフ (1)	佐藤利夫 教授	ライフ (2) その他 (1)
	増永二之 教授	環境 (1)	山口啓子 准教授	環境 (1)
	桑原智之 准教授	環境 (2)	青柳里果 准教授	エネ (1)
	松本真悟 准教授	ライフ (2) 環境 (1)		

4 平成26年度共同研究一覧

総合理工学研究科 (39)	荒河一渡 准教授	ナノ・材 (2)	笹井 亮 准教授	環境 (1)
	北川裕之 准教授	ナノ・材 (1)	宮本光貴 准教授	ナノ・材 (1)
	船木修平 助教	ナノ・材 (1)	清家 泰 教授	環境 (1)
	小俣光司 教授	エネ (1)	西垣内 寛 教授	製造 (2)
	山口 勲 教授	ナノ・材 (1)	田中秀和 准教授	ナノ・材 (2)
	宮崎英敏 准教授	製造 (1)	久保田岳志 准教授	ナノ・材 (1)
	片岡祐介 助教	ナノ・材 (1)	汪 発武 教授	社会 (1)
	六井 淳 講師	情報 (3)	藤田恭久 教授	製造 (1)
	藤田恭久 教授	ナノ・材 (2)	伊藤文彦 教授	情報 (2)
	横田正幸 教授	製造 (2)	李 樹庭 准教授	製造 (1)
	山本真義 准教授	エネ (8)	丸田 誠 教授	社会 (1)
	中井毅尚 准教授	環境 (2)		
研究機構 (12)	戦略的研究推進センター 濱野 強 講師	ライフ (7)	産学連携センター 中 村守彦 教授	情報 (2) ライフ (1)
	産学連携センター 丹生 晃隆 准教授	その他 (1)	総合科学研究支援セン ター 西村浩二 助教	ナノ・材 (1)

※分野ごと区分
 ・情報：情報通信 ・環境：環境 ・ナノ・材：ナノテクノロジー・材料
 ・製造：製造技術 ・社会：社会基盤 ・ライフ：ライフサイエンス ・その他：その他

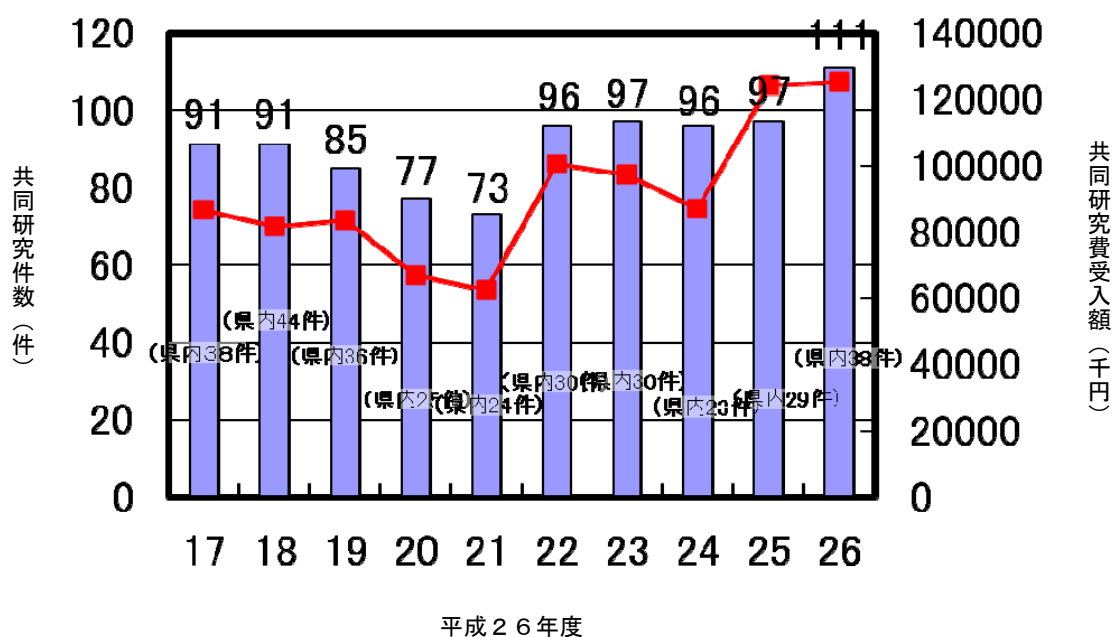


図 共同研究件数と研究費受入額の推移 (平成17年度～平成26年度)

5 知的財産（特許）

島根大学では、実用化が期待できる研究成果について、特許を出願し権利化を進めています。26年度の出願や権利化状況、これまでに特許公開された特許について、以下に紹介します。

【特許出願件数】

特許出願件数	平成 26 年度	累計
	17 件	291 件

【公開特許一覧（平成 27 年 3 月現在）】

	公開番号	発明の名称
1	特許公開 2015-56416	n 型熱電変換材料、熱電変換モジュール、n 型熱電変換材料の製造方法
2	特許公開 2015-37385	サツマイモの栽培方法
3	特許公開 2015-36487	空洞充填によるトンネルの補修方法
4	特許公開 2015-36384	発光材料製造方法
5	特許公開 2014-219548	光増感色素ならびに該色素を含む金属酸化物半導体電極および色素増感太陽電池
6	特許公開 2015-022605	画像処理システム
7	特許公開 2015-020101	放射線遮蔽能を有するヨウ素捕集材料
8	特許公開 2014-219548	マルチコア光伝送システム、光増幅及び光増幅用部品
9	特許公開 2014-231499	抜け毛抑制剤
10	特許公開 2014-219548	暗号処理システム
11	特許公開 2014-217321	蕎麦様食品、及びその製造方法
12	特許公開 2014-211395	塗料乾燥に伴う溶剤の密度推定法
13	特許公開 2014-175508	S i 膜形成方法
14	特許公開 2014-174654	核医学骨画像解析技術
15	特許公開 2014-169191	セラミックス複合材料
16	特許公開 2014-161256	野菜又は果物の栽培方法
17	特許公開 2014-133677	水溶性超常磁性ナノ粒子
18	特許公開 2014-116466	光ファイバ増幅器
19	特許公開 2014-096399	増幅用光ファイバ及び光増幅器
20	特許公開 2014-096398	増幅用光ファイバ及び光増幅器
21	特許公開 2014-093815	駆動回路、電力変換装置および電気機器
22	特許公開 2014-093586	ゲート駆動回路、インバータ回路、電力変換装置および電気機器
23	特許公開 2014-46295	ネオジム回収方法
24	特許公開 2014-41987	n + 型 G e 半導体層形成方法およびオーミック接触構造
25	特許公開 2014-39410	ゲートドライブ回路
26	特許公開 2014-36753	睡眠時下顎固定具
27	特許公開 2014-31348	希土類発光錯体および発光材料
28	特許公開 2013-212548	青果栽培方法
29	特許公開 2013-212548	発光物質

5 知的財産（特許）

30	特許公開 2013-198211	DC-DCコンバータ
31	特許公開 2013-198210	双方向DC-DCコンバータ
32	特許公開 2013-177373	プロモメチルシクロアルカン類の製造方法
33	特許公開 2013-175507	光電変換素子及びその製造方法
34	特許公開 2013-175506	光散乱膜及びその製造方法、太陽電池
35	特許公開 2013-171422	3次元水中インタラクティブ装置
36	特許公開 2013-170302	AZO成膜用ターゲットおよびその製造方法
37	特許公開 2013-168296	有機フォトカソードおよびその製造方法
38	特許公開 2013-158327	セシウムトランスポータおよびセシウム低吸収性イネ
39	特許公開 2013-152613	救急医療における情報通信ネットワークシステム
40	特許公開 2013-133250	シリカ殻からなるナノ中空粒子及びその製造方法
41	特許公開 2013-085373	省エネ走行機能付き自動車
42	特許公開 2013-30399	透明導電膜作成方法および透明導電膜素材
43	特許公開 2013-249	栄養バランス食提供用食器セット
44	特許公開 2012-246584	マトニティドクターコート
45	特開公開 2012-235017	熱電変換材料製造装置及び熱電変換材料製造方法
46	特開公開 2012-211960	物質相互作用をリアルタイムに可視化する技術
47	特開公開 2012-194507	学生能力分析システム
48	特開公開 2012-97240	モノアザキニクフェニル
49	特開公開 2012-79537	照度分布算出プログラム
50	特開公開 2012-75670	カフ電極
51	特許公開 2012-001402	電気抵抗材料
52	特許公開 2011-254836	人工腐植土の製造方法及びその人工腐植土による緑化工法
53	特許公開 2011-252786	細胞内脂肪球イメージング方法、イメージング用蛍光剤およびイメージング蛍光剤製造方法
54	特許公開 2011-252198	透明導電薄膜用ターゲット材およびその製造方法
55	特許公開 2011-239545	DC-DCコンバータ
56	特許公開 2011-193820	乳酸菌、乳酸菌選抜方法、および、発酵食品
57	特許公開 2011-193790	家畜管理方法
58	特許公開 2011-188958	シェーグレン症候群及びドライマウスの治療器並びにドライアイの治療器
59	特許公開 2011-171456	半導体装置、および半導体装置の製造方法
60	特許公開 2011-135797	果実又は野菜の養液栽培方法
61	特許公開 2011-126985	チタン酸バリウム系蛍光物質
62	特許公開 2011-055958	発情期診断システム、発情期診断方法、および発情期診断プログラム
63	特許公開 2011-055733	土壌改質方法および炭素固定方法
64	特許公開 2011-055958	発情期診断システム、発情期診断方法、および発情期診断プログラム
65	特許公開 2011-055733	土壌改質方法および炭素固定方法
66	特許公開 2011-055580	共振型電力変換装置
67	特許公開 2011-050498	内視鏡
68	特許公開 2011-006266	BaTi ₂ O ₅ 系強誘電性セラミックス製造方法
69	特許公開 2011-000086	集草装置

5 知的財産（特許）

70	特許公開 2010-282530	2次元バーコード並びにその読取システム及び生成システム
71	特許公開 2010-246760	光照射装置及び毛の処理方法
72	特許公開 2010-234497	チップソー用のチップ
73	特許公開 2010-215450	チタン酸バリウム系結晶の製造方法
74	特許公開 2010-209602	堤体表層部の被覆構造
75	特許公開 2010-183860	常温型アスパラギン酸脱水素酵素およびL-アスパラギン酸製造方法
76	特許公開 2010-150188	排便促進用組成物
77	特許公開 2010-148398	人工腐植土の製造方法
78	特許公開 2010-117180	接地不良検知器
79	特許公開 2010-96685	片手持ち搾乳器
80	特許公開 2010-057743	骨部位用ネジ
81	特許公開 2010-040724	熱電変換材料
82	特許公開 2010-013309	アナターゼ型酸化チタンおよび透明導電薄膜
83	特許公開 2010-004704	DC-DCコンバータ
84	特許公開 2010-004703	スナバ回路付きDC-DCコンバータ
85	特許公開 2009-262037	排水処理装置および吸着材の再生方法
86	特許公開 2009-261136	双方向DC-DCコンバータ
87	特許公開 2009-261135	電流制御型DC-DCコンバータ
88	特許公開 2009-260321	n型亜鉛アンチモン系化合物熱電半導体
89	特許公開 2009-202125	汚水処理水の脱色方法及び脱色用部材の再生方法
90	特許公開 2009-172265	多点電極
91	特許公開 2009-147098	半導体多結晶薄膜及び半導体装置
92	特許公開 2009-141457	可逆圧縮用符号化システム及び情報媒体
93	特許公開 2009-76619	耐熱衝撃性電磁波シールド材およびその製造方法
94	特許公開 2009-065942	ブルーベリーの挿し木用培養土及び栽培方法
95	特許公開 2009-059235	ユーザ認証システム
96	特許公開 2009-046356	酸化亜鉛ナノクリスタルおよびナノコンポジット
97	特許公開 2009-027991	走行型刈取機
98	特許公開 2009-011969	貝分別方法
99	特許公開 2009-011517	膝蓋骨測定装置
100	特許公開 2008-297998	風力発電装置
101	特許公開 2008-285339	セラミック膜、発光素子及びセラミック膜の製造方法
102	特許公開 2008-246144	毛成長調節方法及びその装置
103	特許公開 2008-244387	酸化亜鉛系発光素子
104	特許公開 2008-241551	汎用的高感度ELISA法およびその試薬キット
105	特許公開 2008-239456	機能性チタン酸ストロンチウム結晶およびその製造方法
106	特許公開 2008-233051	電気泳動用バッファ及び電気泳動法
107	特許公開 2008-224420	光ファイバ照明装置
108	特許公開 2008-222591	表面がアルキル基またはアリール基で修飾された金属リン酸塩ナノ体、その製造方法およびその用途
109	特許公開 2008-211984	土壌管理方法
110	特許公開 2008-185363	水中環境汚染物質の簡易定量方法及び簡易定量測定具

5 知的財産（特許）

111	特許公開 2008-184794	段差緩衝構造
112	特許公開 2008-184420	新規有害生物防除剤
113	特許公開 2008-100907	吸着用木炭の製造方法
114	特許公開 2008-029811	毛成長調節方法及びその装置
115	特許公開 2008-001962	耐酸化材料及び耐酸化材料の製造方法
116	特許公開 2008-000129	形質転換イネ、血圧降下をもたらす米、および、イネ用ベクター
117	特許公開 2007-326768	KFを含有するチタン酸バリウム系圧電体またはその製造方法
118	特許公開 2007-307090	内視鏡、内視鏡アタッチメント、および、内視鏡装置
119	特許公開 2007-245327	切削用チップおよび切削工具、並びに切削用チップの作製方法
120	特許公開 2007-236350	脳卒中を発症しにくいSHRSP系ラット
121	特許公開 2007-229271	生体組織接着性医療器具
122	特許公開 2007-229270	生体組織接着装置
123	特許公開 2007-216192	ヘドロ処理方法
124	特許公開 2007-195571	骨接合用骨製ネジ
125	特許公開 2007-156857	対話型インターフェース方式および対話型インターフェース用プログラム
126	特許公開 2007-153736	安定化ジルコニア繊維製造方法、および、安定化ジルコニア繊維
127	特許公開 2007-118152	ブローチ加工装置
128	特許公開 2007-117099	グルタミン酸脱炭酸酵素、グルタミン酸脱酸素酵素をコードするDNA、グルタミン酸脱炭酸酵素が発現可能な形態で導入された微生物、グルタミン酸脱炭酸酵素の製造方法、および、トランスジェニック植物
129	特許公開 2007-054256	被処理液のウイルス失活方法
130	特許公開 2006-345784	濾過食性二枚貝の飼育方法、濾過食性二枚貝の飼育システム、濾過食性二枚貝を用いた汽水の浄化方法、および、濾過食性二枚貝を用いた汽水の浄化システム
131	特許公開 2006-334704	マイクロミリングシステムの制御方法
132	特許公開 2006-334703	マイクロミル
133	特許公開 2006-308433	土壌水移動速度導出方法および土壌水移動速度測定装置
134	特許公開 2006-303427	熱電半導体材料の製造方法
135	特許公開 2006-254795	アスパラギン酸脱水素酵素、アラニン脱水素酵素、L-アスパラギン酸製造方法、および、D-リンゴ酸製造方法
136	特許公開 2006-239825	立旋盤
137	特許公開 2006-231476	チャック
138	特許公開 2006-225442	蛍光性ジアザアントラセン類および蛍光性ジアザアントラセン類合成方法
139	特許公開 2006-212019	植物を用いたユビキノノー10の製造方法
140	特許公開 2006-205096	塩類を含む土の除塩方法
141	特許公開 2006-175130	骨接合術用具
142	特許公開 2006-147866	炭化珪素薄膜の成膜方法
143	特許公開 2006-126083	即時型小麦アレルギーの診断方法
144	特許公開 2006-094803	T-RFLPをもちいた微生物群集構造の解析方法
145	特許公開 2006-076866	シリカ多孔体結晶の製造方法
146	特許公開 2006-075815	脱窒脱リン用成型体及び汚水・排水の脱窒脱リン処理方法

5 知的財産（特許）

147	特許公開 2006-064413	比熱および熱伝導率の測定方法。
148	特許公開 2006-061063	脱色活性を有するペルオキシターゼ、当該ペルオキシターゼをコードするDNA、当該ペルオキシターゼが発現可能な形態で導入された微生物、および、脱色剤の製造方法
149	特許公開 2006-028086	クエルセチン3- α -（6- α -マロニル）グルコシドを有効成分として含む医薬組成物およびクエルセチンマロニルグルコシドを含有する食品
150	特許公開 2006-025867	手術用縫合糸
151	特許公開 2005-306632	ゼオライトの合成方法
152	特許公開 2005-176748	後作植物判定方法および植物の連続栽培方法
153	特許公開 2005-060145	酸化亜鉛超微粒子および酸化亜鉛超微粒子の製造方法
154	特許公開 2005-000326	トレッドミルおよびトレッドミルの使用方法。
155	特許公開 2005-000091	根菜類の水耕栽培法
156	特許公開 2004-290069	グルタミン酸脱炭酸酵素、グルタミン酸脱炭酸酵素をコードするDNA、グルタミン酸脱炭酸酵素が発現可能な形態で導入された微生物、グルタミン酸脱炭酸酵素の製造方法、および、トランスジェニック植物
157	特許公開 2004-285127	炭製造方法および炭
158	特許公開 2004-276228	酸素富化による雰囲気制御切削方法及び切削工具
159	特許公開 2004-267140	水耕栽培方法
160	特許公開 2004-264902	セッション開始方法、アイコン画像作成装置、セッション開始プログラムおよびアイコン画像作成プログラム
161	特許公開 2004-231500	チタン酸バリウム結晶、コンデンサ、光スイッチおよびFRAM
162	特許公開 2004-112882	突入電流抑制方法
163	特許公開 2004-089097	グルタミン酸脱水素酵素、グルタミン酸脱水素酵素をコードするDNA、グルタミン酸脱水素酵素が発現可能な形態で導入された微生物、および、グルタミン酸脱水素酵素の製造方法
164	特許公開 2004-040054	酸化亜鉛系薄膜の成長方法

[J-STORE, 開放特許情報データベース登録件数]

	平成 26 年度登録	累計
J-STORE	11 件	90 件
開放特許情報データベース	11 件	98 件

6 平成26年度産学連携センターの活動に関する報道・主な記事

当センターの活動や産学連携の活動が、新聞などで記事として取り上げられています。

平成26年度に報道機関に取り上げられた主な記事を、以下に紹介します。

日付	誌名	見出し	内容
4/1	山陰経済ウィークリー	島大とエゴマ卵を共同研究・人への血糖値抑制効果示す	丹生晃隆 准教授が関係した連携活動について
4/22	山陰中央新報	磁石廃材から常温常圧回収ネオジム	当センターが産学連携を進めている総合理工学研究科 笹井 亮准教授の研究について
5/9	山陰中央新報	おろち大根でソースを開発	丹生晃隆 准教授が関係する連携事業について
5/10	山陰中央新報	初めて民間中心でRuby 体験教室	丹生晃隆 准教授が関係する連携事業について
5/16	山陰経済ウィークリー	衣類でやさしくウールも可能 ヨークが押し洗い洗濯機開発	丹生晃隆 准教授が関係する連携事業について
6/6	山陰中央新報	ベッドの寝返りや起床感知	当センターが産学連携を進めている医学部 花田英輔 准教授の研究について
6/20	山陰中央新報	まっえ産業支援センター 開所1年記念し講演会	大庭卓也 センター長が参加した講演会について
7/12	山陰中央新報	U-25 Rubyコンテスト	丹生晃隆 准教授が関係した連携活動について
8/2	山陰中央新報	IT企業誘致加速へ 13社招き視察ツアー	丹生晃隆 准教授が参加した連携活動について
8/6	山陰中央新報	サイン認証技術開発	当センターが産学連携を進めている総合理工学研究科 六井 淳講師の研究について
8/	山陰中央新報	3次元加工機 産学で開発	当センターが産学連携を進めている医学部 内尾祐司 教授の研究について
8/27	山陰中央新報	松江にソフト開発拠点 起業支援のビジネスバンク(東京)	丹生晃隆 准教授が関係した連携活動について
10/1	産学連携ジャーナル	島根大学+夏目製作所 マウス・ラット用片手持ち搾乳機	当センターが産学連携を進めている「マウス・ラット用手持ち搾乳機」について(総合科学研究支援センター 川上浩平 技術専門職員)
10/10	山陰中央新報	Ruby ワールドカンファレンス 有料化し内容充実へ	丹生晃隆 准教授が関係した連携活動について

産学連携センター地域産業共同研究部門は平成26年現在で下記の実験装置を常置機器として設置しております。

[原子間力／磁気力顕微鏡]

物質の表面および磁気構造を高分解能で観察する装置です。大気中観察タイプで観測できる試料サイズは100φ×10mmの大きさまで。また、金属、半導体、有機物など対象を選ばず観測できます。観察最大範囲は100×100μmです。



[走査型電子顕微鏡]

物質の表面構造を高分解能で観察する装置です。観察有効倍率約5万倍。現在までのところ、産学連携センター地域産業共同研究部門は表面を金などでコーティングするための蒸着装置やスパッタ装置を持っておりませんので、絶縁物の観察は、あらかじめコーティングをご自分でお願いします。



島根大学産学連携センター(松江地区)

平成26年度年報 通巻第19号

2015年12月 発行

編集 島根大学産学連携センター(松江地区)

〒690-0816 松江市北陵町2番地 TEL 0852-60-2290 FAX 0852-60-2395

E-mail crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp URL <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>

